

第6回登別市史編さん委員会 協議概要

日 時：平成30年3月20日（火） 午後1時30分～

場 所：市役所第4会議室

出席者 委 員 出席6名、欠席4名
事務局 4名

1 諸報告

(1) 平成29年度の取組について

平成29年度に行った取組の概要について報告した。

- ・市民による昔を語る座談会 7地区49人参加
- ・個人への聞き取り調査 延べ94人
- ・石碑調査事業 185件の石碑、石仏等を確認
- ・市広報紙での連載 8月号より連載を開始した
- ・市史編さんだよりの発行 第2号から第6号までの5回発行
- ・市史編さん委員会の開催 3回開催
- ・原稿の執筆 下書きを進めている
- ・原稿執筆の依頼 外部の専門家への執筆の依頼を進めている。

(2) 平成30年度に予定する取組について

- ア 北海道立文書館、北海道大学附属図書館などでの資料収集
- イ 執筆した原稿の市史編さん委員会委員による確認
- ウ 原稿執筆の依頼
- エ 市史編纂だよりの発行（4回発行予定）
- オ 市広報紙での連載

(3) 金井抱二日記の読解翻刻について

金井抱二日記の読解と翻刻を4月下旬から開始する。

作業への参加者は、市広報紙4月号で市民等から募る。

(委 員) 市史編さんだよりの評判はどうか。

(事務局) 市民だけではなく、市外の方からも好評をいただいている。

(委 員) 市史編さん事業の取組概要を知ることができれば、より多くの市民も興味を抱くことになると思うので、次年度も頑張ってもらいたい。

(委 員) 「昔を語る座談会」の記録は、市の財産としてしっかりと保存してもらいたい。

資料については、座談会の記録以外の写真等についてもリストを作り、後から混乱のないよう整理をしてほしい。

市史編さんをやって本が出来るまでは体制が整っているが、本が完成した後に収集した資料をどこが保管するかを決定しないうちに散逸することがある。

そのようなことが無いように十分注意してほしい。

(委員) 外部に原稿執筆を依頼しているとのことだが、論文集に掲載するような文章を書く専門家がたまにいますので、自然史の中での原稿である旨を十分に理解してもらった上で依頼をしてほしい。

(委員) 『金井抱二日記』の読解翻刻とあるが、どのような筆記用具で書かれているのか。筆字の場合は、読解に相当の苦労が伴うと思う。

(事務局) 筆ではなくサインペンなどを用いて書かれている。字体についてもそれほど読みづらいことも無いと思う。

2 協議事項

(1) 市史の名称について

(事務局) 「市史の題名が『新登別市史』の場合、「新登別市」が誕生したと誤解するおそれがあるので『新・登別市史』としてはどうか」との意見が寄せられている。

(委員) 中黒が打ってある市町村史はあまりないのではないかと。

本の奥付に記載する正式な題名は『新登別市史』とし、背表紙などに記載する際に字の大きさを工夫する等で良いのではないかと。

※他の委員からも賛同の声があり、正式名は「新登別市史」とし、背表紙等については文字サイズを変更するなどにより対応することで決定する。

(2) 原稿確認について

(事務局) 原稿内容を最初に確認する委員の割り振り案を行ったので、担当いただく分野について確認いただきたい。

原稿確認の方法についてだが、確認いただく原稿に作業年表や資料を付した書類をお渡しする。資料等を参考にしながら、事実認定の誤りや文章がわかりづらい点などについて指摘していただきたいと考えている。

(委員) 原稿について我々委員がどの範囲まで読み解くかということになるが、どこの市町村の編さん委員でも原稿を逐一調べ上げると言うことは不可能に近いと思われる。従って、誤字脱字、人名、地名、年代や数値、これらに不備はないかをチェックし、その上で、全体の流れからみておかしいところはないかなどを見るのが普通の編さん委員の役割と思う。

(委員) 町内会報を書いていると思うのだが、例えば「作る」という動詞が、市民憲章ではひらがな、市政の概要では漢字で書かれている。ひらがなと漢字を併用して良いのであれば良いが、統一するならばきちんと直したほうがよいと思う。小さなことではあるが、大切にしていってほしい。

(事務局) 年号の表記は、後で統一して修正する。それ以外の部分で、「アラビア数字になっているが、漢数字ではないか」といったように気になる点があれば、赤丸を付けていただき、事務局にご確認いただきたい。

(委員) カタカナ言葉の乱用は控えていただきたい。

(事務局) その内容によると思うが、基本的には、新聞社が新聞記事を書く際の基準に近い形で判断していきたいと考えている。